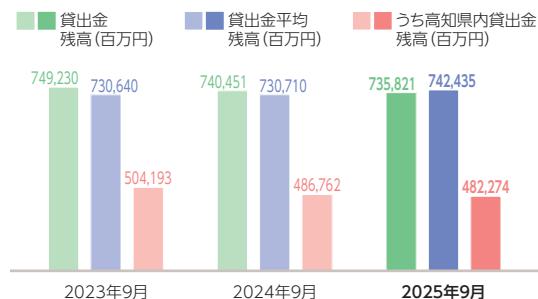


財務ハイライト

地域に密着した営業活動を展開してまいりました結果、当事業年度中間期の業績は以下のとおりとなりました。

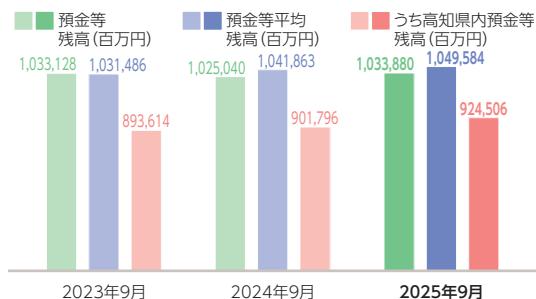
貸出金

金融仲介機能を発揮して地域中小企業の資金繰支援や様々なニーズに対し真摯に取り組んでまいりました結果、貸出金残高は運輸業・郵便業・不動産業・物品販賣業、建設業等が増加、一方で金融業・保険業・製造業、卸売業などが減少したことから、全体では前年同期末比46億円減少して7,358億円となりましたが、平均残高は117億円増加して7,424億円となりました。



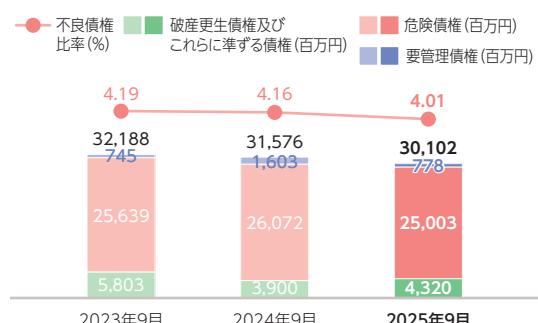
預金等 (譲渡性預金含む)

個人預金等が金利志向や投資意欲の高まりなどから減少し、法人預金も減少しましたが、公金預金が増加したことから、預金等残高は前年同期末比88億円増加して1兆338億円、平均残高は77億円増加して1兆495億円となりました。



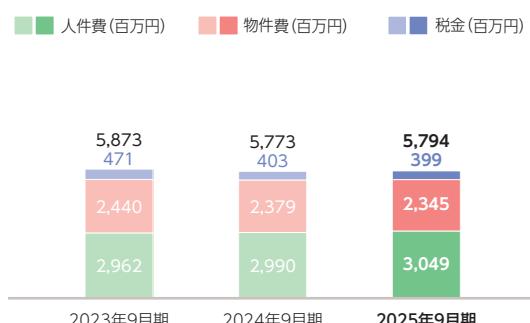
金融再生法開示債権及びリスク管理債権

金融再生法開示債券及びリスク管理債権の合計は、前年同期末比14億74百万円減少して301億2百万円となり、総与信額に占める比率は前年同期末比0.15ポイント低下して4.01%となりました。



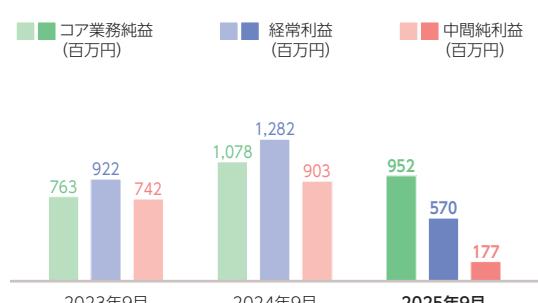
経費

物件費や税金が減少しましたが、職員の待遇改善により人件費が増加したことから、経費全体では前年同期比21百万円増加して57億94百万円となりました。



コア業務純益・経常利益・中間純利益

コア業務純益は9億52百万円、経常利益は5億70百万円、中間純利益は1億77百万円となりました。



●コア業務純益

コア業務純益とは、資金の運用収支、手数料等の収支、外国為替や債券等の売買の損益等の利益から債券に係る損益と経費を差し引いて算出される利益で「銀行の本業での業績を表す指標」といわれております。

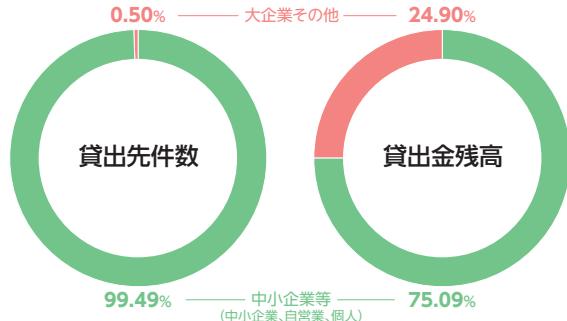
自己資本比率

経営の健全性の重要な指標とされる自己資本比率は、前年同期末比0.34ポイント上昇して8.90%となりました。

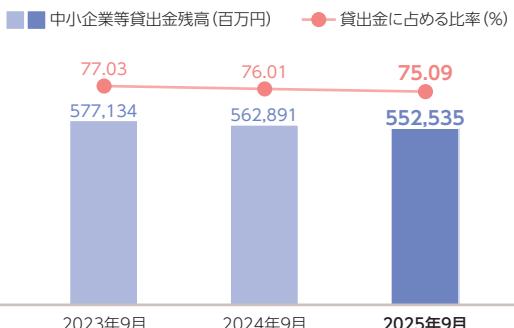


■中小企業等に対する貸出金

中小企業等に対する貸出金の比率
(2025年9月末)

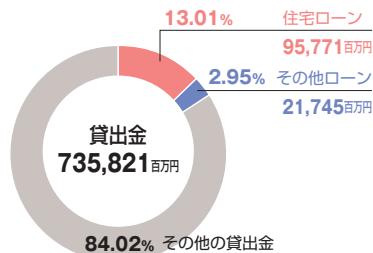


中小企業等に対する貸出金残高の推移

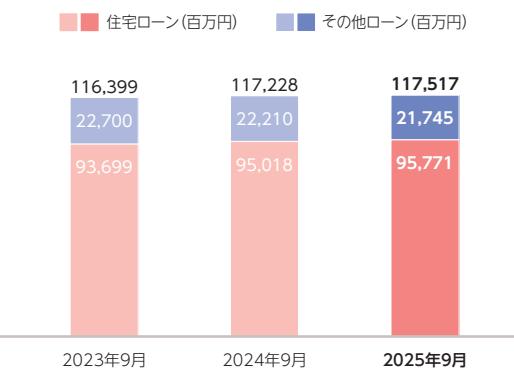


■個人ローン

個人ローン(住宅ローン・その他ローン)残高の比率
(2025年9月末)



個人ローン残高の推移



■個人預金の推移

個人預金残高 (百万円) 個人預金比率 (%)



■預り資産の推移

投資信託 (百万円) 生保窓版(販売累計額) (百万円) 国債 (百万円)

